

絵本作家 講演会

絵本販売
サイン会を
行います

「絵本で子どもたちに つたえたいこと」

日時 3月2日(土)
13:30~15:00

会場 小郡市文化会館
大ホール

★小学生以上のお子さん（保護者同伴）
から参加可能

講師 絵本作家 は せ が わ よ し ゐ み 長谷川 義史 さん

プロフィール

- 1961年大阪府藤井寺市生まれ。
- 『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』（BL出版）で絵本デビュー。『いいからいいから』（絵本館）『へいわってすてきだね』（プロンズ新社）『おならまんざい』（小学館）など、ユーモラスでおおらかな絵本が大人から子どもまで大人気。
- 社会派なテーマにも意欲的に取り組んでいる。『おたまさんのおかいさん』で第34回講談社出版文化賞絵本賞、『ぼくがラーメンたべるとき』で第13回日本絵本賞と第57回小学館児童出版文化賞など多数受賞。



長谷川義史さんの絵本には、「世界中のみんなが笑っていてほしい」、「自由に幸せであってほしい」といった願いが込められた作品が数多くあります。絵本を通じて、平和や人権、人と人のつながりの大切さについて考えてみませんか。

トークや絵本の読み聞かせ、ウクレレ演奏、ライブペインティングなど、子どもから大人まで世代を問わずに楽しめる講演会となっています。

定員400人(先着順) / 入場無料 / 手話通訳・要約筆記・託児あり

★申込方法

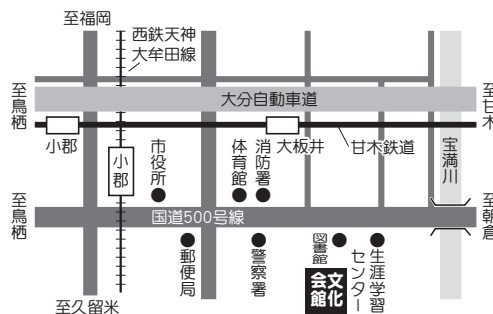
電話・FAX・申込フォームで、
①氏名 ②住所 ③電話番号 ④託児の有無を明記し、2/22(木)までに申込み。

★申込・問合せ先

小郡市人権教育啓発センター
TEL/FAX 0942-80-1080



▲申込フォーム



《会場所在地》小郡市大板井136-1

人権センター公開講座・ちょっと気になる七夕人権考座・市同研社教部全体研修会 合同開催

小郡市 人権センター 通信

No.
40

Contents 「主な内容」

- 絵本作家講演会「絵本で子どもたちにつたえたいこと」
開催のお知らせ …………… P 1
- 絵本をとおして学ぶ
～平和・人権・人と人とのつながりの大切さ～ … P 2・3
- 人権センターライブラリー …………… P 4

絵本をとおして学ぶ ～ 平和・人権・人と人とのつながりの大切さ ～

○戦争は最大の人権侵害

ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻。イスラエルとガザ地区における軍事衝突。この二つの紛争については、テレビや新聞等で毎日のように現地の悲惨な状況が報じられています。これらの地域以外にも、現在、世界各地でさまざまな紛争が起こっており、その数は60弱にも及ぶと言われています。

小郡市名誉市民の上杉佐一郎さんは「戦争は最大の人権侵害です。戦争になると、人々の生活はおびやかされ、権利は制限され、差別が強められます。」と言われました。実際に、今世界で起こっている紛争は、死者やけが人を多数出すだけでなく、人々の生活を多岐にわたりおびやかしています。

具体的には、

- 医療問題…戦闘による負傷者対応やインフラの壊滅的なダメージにより、紛争地域や難民キャンプで暮らす人々は、本来であれば治療可能である病気(下痢など)で命を落とすことが多くあります。
- 食糧問題…紛争地域だけでなく、穀物をロシアなどからの輸入に頼っていたアフリカ諸国では、多くの人々が深刻化した食糧問題・飢餓に苦しんでいます。
- 教育問題…被災した子どもたちは、通っていた学校がなくなる、住む場所を離れる(難民となる)などの理由で、教育を受けることができません。教育を受けられずに大人になれば、安定した収入を得られる職に就くことが難しくなり、貧困問題へとつながります。

○私たちにできること

このような状況に無関心でいたり、いつかの感情で終わらせるのではなく、家庭や地域、学校、職場の中で平和や人権、人と人とのつながりの大切さについて考える機会をつくるのが私たちにできることの一つではないでしょうか。考える機会の一つとして、人権センターでは「絵本をとおして学ぶ」ことを提案しています。絵本の中にも、平和や人権をテーマにしたものが多くあります。そこには、やさしい絵と言葉で表現された作者のメッセージがあり、小さな子どもから大人までいっしょに受け取ることができるのです。3月2日(土)開催の公開講座の講師「長谷川義史さん」も戦争や平和、さまざまな人権問題に向き合った絵本を多数手がけられています。長谷川さんが絵本に込めた人に対する温かなまなざしや平和を願う気持ちに触れ、世界中で起きていることや人権問題について考えてみる時間を作ってみませんか。

絵本作家 長谷川義史さん “絵本でつたえたいこと”

絵本は見てもらって、楽しいなって思っほしいし、笑ってほしいし、元気になって欲しい。できれば感動もしてほしいし、もっと言えば、生きてよかったなと思っほしいですね。それは初めて展覧会した時からそうですね。なんか、絵見て元気になってほしいって文章書いてますから。

ぼくは絵描くことがずっとしたくて、子どもの時から、絵を人に見して笑ってもらうことがすごく大好きやったんですね。今もまったく同じことしてる。それで子どもたちに、「好きなことをしているおっさんもおるんやで」ということを感じて欲しい。だから学校とか行ったら必ず、「好きなことを見つけて、好きなことをしてくだ

さいね」って言うんです。

ほんで、好きなことを続けて好きなようにやっていこうと思ったら、誰からも束縛されることのない、人権を奪われることのない、平和な世の中でないとそれができないというところにつながるんですけどね。

僕、バカみたいな本もいっぱい描いているけど、メッセージ性のある平和の絵本も描いている。その振り幅は広いけど、僕の中ではおんなしことなんです。バカみたいなワハハって笑う絵本も、平和でないと笑えないですから。

絵本作家のブルース

長谷川義史 著より



「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」

『おじいちゃんのおとうさんはどんな人?』5歳の男の子の問いかけから、時はどんどんさかのぼり、おじいちゃんのおじいちゃんが次々に現れる。「ひい、ひい、ひい・・・おじいちゃん」という表現から、すべての命はつながっているというメッセージを受け取ることができる絵本。

長谷川さんの思い

「生まれてきてよかったわあ」という、僕の思っていることの基本が出ている絵本です。

「ぼくがラーメンたべてるとき」

ぼくがラーメンたべているとき、隣の家の子は何をしているだろう。その隣の家、となりの国の子は一。同じ時間のなかで楽しく笑っている人もいれば、つらい思いをしている人もいる。ほのぼのとした表紙からは思いもかけない展開があり、ぜひ一緒に読んだ人と感想を伝えあってほしい絵本。

長谷川さんの思い

今を考えるときに、横の時空での想像力も持たなあかんと思っ描きました。





人権センターライブラリー



「ヘイトをのりこえる教室ーともに生きるためのレッスン」(本)

●著者：風巻浩・金迅野、発行：大月書店

○ 内 容

特定の民族や人種に対する差別をあおるヘイトスピーチや、ヘイトクライム(憎悪犯罪)にどう向き合い、どう乗り越えていけばいいのか。それを中高生と考える本を、東京都立大特任教授の風巻浩さんと立教大大学院特任准教授で在日コリアンの金迅野(きむしんや)さんがまとめた。「意見の押しつけを避け、どう考えるかを車座で語り合う本にしたかった」と2人は言う。

ヘイトや差別の歴史について学び、自分がその場にいたらどう行動するのか、ともに生きるためにはどうしたらよいかを考えさせられる一冊。



「おたまさんのおかいさん」(絵本)

●文：日之出の絵本製作実行委員会 絵：長谷川義史 発行：解放出版社

○ 内 容

「おかいさん おかいさん ぐつぐつ ふつふつ こーい こーい」。主人公おたまさんのつくるおかいさん(おかゆのこと)は、食べる人を元気にさせる。喧嘩だって収めてしまう。大阪市内にかつてあった日之出という被差別部落が舞台となっており、差別や貧しさに加え戦争の被害にあいながらも強くたくましく生きる人々の姿が、肝っ玉のおたまさんを中心に描かれている。



「破戒」(DVD)

●企画・製作：全国水平社創立100周年記念映画製作委員会 制作：東映

○ 内 容

島崎藤村、不朽の名作「破戒」を60年ぶりに映画化(2022年7月公開)。

まだ身分制度の影が残る明治の終わり頃の話。被差別部落に生まれ、その出自を隠し通すよう亡き父から戒めを受けた瀬川丑松(間宮祥太郎)は、地元を離れて小学校の教員として奉職する。彼は生徒に慕われる良い教師だったが、出自を隠していることに悩みつつ、下宿先の士族出身の女性・志保との恋に落ちる。そんな中、同じ宿命を持つ解放運動家、猪子蓮太郎の壮烈な死に心を動かされ、ついに父の戒めを破る。丑松はある決意を胸に、教え子たちが待つ最後の教壇へ立ちクライマックスを迎える。



人権センター 図書・DVD利用について

- ①貸出数…1回につき 5冊(本)
- ②貸出期間…2週間
- ③手続き…免許証等で本人確認後、貸出簿に必要事項記入

小郡市人権教育啓発センター

(所在地) 〒838-0141 小郡市小郡296
 (電話&FAX) 0942-80-1080(直通)
 (Eメール) dotai@city.ogori.lg.jp
 (ホームページ) <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/>
 【ホーム>学ぶ・スポーツ・人権>人権教育啓発センター】